

## 若い教師のために⑪

### アクティブ力

学力研常任委員 深沢 英雄

#### 一、授業を見せてもらう

教師になった一年目、中学校の数学教師になりました。講師でした。理科の免許しかもっていませんでしたが、臨時免許で教えていました。当時はそれができていました。教育学部出身でもない、専門でもない数学。全く、知識・技能が0の教師生活のスタートでした。

分からないことだらけなので、色々な先生に訊きまくりました。でも一番不安なのは、授業でした。中学一年生の担当で十クラスの学年でした。

そのうち五クラスが菊本先生、二クラスが藤本先生という、その当時四・五十代のベテラン教師でした。

藁にもすがる思いで、二人の先生に授業参観をお願いしました。担当のクラスの授業が無い時に、何度も見せてもらいました。

今から考えると、結構厚かましかったと思います。でもいい意味の「厚かましき」「強引さ」が必要です。行動を起こすことが大事です。二人の先生はとても親切に教えてくれました。飲みにもよく連れて行ってもらいました。そこで、授業の技を教えてくださいました。気をつけたことは、見せてもらった後に、必ずお礼を言っ、学ばせてもらったことを伝えるようにしました。

転動して小学校に移ってからも、学校の中にいる先生で、この人から学びたいという先生には、お願いして授業を見せてもらいました。

#### 二、土日ごとに研究会に行く

何も知らない私は、遅れ感のかたまりでした。学校の中だけで学ぶだけでは、足らなかったのです。今のようインターネッ

トのない時代です。本や雑誌を手がかりに色々な研究会や講座にいきました。

お金も時間もかかりましたが、そんなこと気にする余裕ありませんでした。作文の会、理科サークル、歴教協、数教協、朗読の会、演劇研などの研究会。その時、あゆみ出版という会社が、「子どもと教育」という雑誌を出していて、教育講座も開催していました。近畿一円で実施していました。兵庫県、大阪府、京都府、奈良県などです。

#### 三、市内の研修会に参加する

地元にも素晴らしい先生や学校がたくさんあります。学校の掲示板には、たくさん研究会や研修会の案内が貼られます。いつも掲示板を眺めて、これはという会には行くようにしました。研究主任の机にのっている案内状も見せてもらいました。

行かなくもいいのです。クラスの授業をしていることが私たちの仕事です。でも行くとなると、クラスを自習にしなくてはなりません。できるだけ、迷惑をかけないように、専科の先生や学年の先生にお願いに

あがり、自習ではないようにするには、配慮がいらします。時間も気もつかいます。でもそれをして、学ぶことへの欲があると進むことができます。

#### 四、誘われたら、行く。

誘ってもらえるということは光栄なことです。どうしても合わないというところに無理やり行くことはありませんが、誘ってくれる人が信頼できる人なら絶対にいくべきです。誘う人は、「この人は」ということで誘ってくれるのです。だれでもかれでも誘っているわけではありません。誘われるということはいいことなのです。認められている証拠です。

師匠である、岸本先生との出会いは、先輩から誘ってもらったことでした。岸本先生の本は読んでいて、いつか会いたいなと思っていました。ある時、知り合いの先輩から「岸本先生が、若い先生と一緒に勉強会をしたいと思っているそうなんだ。今度、会を開くから、深沢さんも来ないか。」と誘われたんがきっかけでした。

#### 五、自分たちで研究会を作る

神戸で岸本先生とはじめた勉強会の名前は「北区教科研」でした。岸本先生が教科研（教育科学研究会）の全国委員をされていたからです。北区は神戸の北区でやっていたからです。

その当時、岸本先生は色々な所で講演、講座を開かれていました。

大阪では青木学校という講座が開かれ、岸本先生が話をされました。その卒業生が集まって、大阪にサークルができました。西宮にも岸本先生の理論と実践を学ぶサークルができたの、合同例会を開いたのが、学力研の前身（落ち研）の始まりです。

思いを一緒にする仲間とともに、勉強会・研究会を立ち上げるのです。

#### 六、サークルは自分の学びたいことを実現する場

この広場を読んでいただいている方は、学力研の会員の方です。学びたい、成長し

たいという気持ちの強い方ばかりだと思いません。

学力研は、自分のやりたいことを形にしていくのに、とても柔軟なサークルです。「どの子も伸びる」「どの子にも確かで豊かな学力を」という一点で、手を結び、学ぶことができる会です。

私は長年、この会に属してきましたが、自分のやりたいことが学力研にいたことでたくさん実現できました。神戸のサークルで最初にしたのは、岸本先生の文章講座、ミニ講座、本の輪読会などです。その後、神戸のサークルのメンバーで講座をしたり、本や冊子を作ったりしました。

学力研には、部会制度があります。サークル内、サークルです。算数部会、幼児教育部会、社会科部会、漢字部会、見えない学力部会、実践工房 SHIN（学力研若手サークル）一年生部会、二年生部会など、学年ごとのサークルも開かれてこともあります。荒井先生が中心のサークルで「久保一日講座」「深沢一日講座」なども開催されたこともあります。皆さんも一緒に、アクティブに学び続けていきましょう。